

Follow up

本日は、大切な CA を前に少々やわらかいお話でお付き合い下さい。

来週は本来天神祭り、このコロナ禍で中止となりました。そこでせめて天神祭りに因み大阪締めのお話をさせていただきます。わたくし四半世紀以上に渡り、毎年7月25日の天神祭り船渡御に御旗講で乗って参りました。

1年を通じて一番多く大阪締めに接する機会があるのは何と言っても夏の天神祭だと思っています。川面に約100隻以上の船が浮かぶ祭りの目玉「船渡御」、行交う船が互いに手拍子を送り合う、その手拍子が大阪締め。両手を前に掲げ手拍子の準備「打ちまーしょ」の掛声と共に「パン.パン」2回手打ち、「もひとつせえ」で「パン.パン」最後に「いおう(祝う)てさんど(三度)お」の掛声に「パパン.パン」と3回。

天神祭「船渡御」は、ご神霊を船に乗せて川や海を渡す言うまでもない神事、その神事から大阪締めの由来を辿っていくと、大阪天王寺にある生国魂神社 通称「いくたまさん」が発祥の地とされています。但し、生国魂神社に古来より伝わる手締めは先ほどの大阪締めに続きがあるロングバージョンで、「いおうてさんどお」の手拍子「パン.パン.パン」その後「めでたいなあ」「パン.パン」最後に「本決まりい」「パン.パン」と続きます。

天神祭の手締めは節が3つ、生国魂神社の手締めは節が5つ。川の流れが速く5つでは船がすれ違う時間内に間合わない為3つに減ったのではないかと伝えられています。

江戸時代になるとこの大阪締めは商業の場にも広がっていきます。船場や堂島などで商いをする“大阪商人”は商談成立を祝い「こらで手えうちまひよか」と言って手締めをする様は、井原西鶴の日本永代蔵にも出て参ります。契約を文書に残す習慣が普及していなかった時代、北回り船などの航路に乗って人の口から口へ 北は北海道 南は九州まで伝わったそうです。今でも全国に大阪締めと拍子のよく似た手締めが残る地域があると言われています。

尚、大阪締め厳密には、男締めと女締めがありまして

男締めは「打ちまーしょ」、女締めは「打一ちましょ」で始まります。船渡御はもちろ

ん、生国魂神社のロングバージョンも男締めです。落語家の間では女性がいても男締めで統一するらしく、以前にサンケイホール恒例の正月米朝独演会で、桂米朝がそのように言っていました。しかし、さすが歌舞伎は、女性を演じる事が多うございますので女締めの様であります。尚、当クラブには三大証券の支店長さんお三方がおいでです。

2001年に大阪証券取引所が新年祝賀会恒例の三本締めをやめて大阪締めを復活させ、これを「大株締め（だいかぶ締め）」と呼び現在も続いています。

最後に面白い比率をご覧ください終わります。各種手締めの全国比率（ぐるなびの調べ）

1位：一本締め・・・64% 2位：三本締め・・・20% 3位：一丁締め／関東一本締め・・・10% 4位：大阪締め・・・3% 4位：博多手一本・・・3% だそうです。

よく勘違いされますが、一本締めは、「いよーお！パパン、パパン、パパン、パン」の1回版、それを3回すると三本締め、「よーおパン」と言うのは一丁締めないし関東一本締めです。最後の博多手一本は申し訳ないですが、正確には再現できません、来年の6月末無事会長職を全うできましたら、博多の中洲にでも現地調査に出かけて参ります。本日はこれにて。おやかましゅうございました。

2020年7月16日第三例会 会長の時間にて 東野裕暢